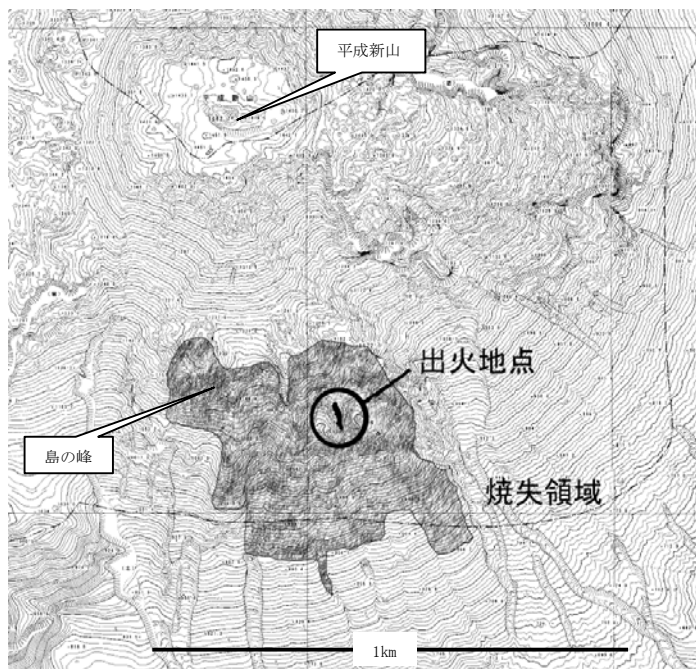


## 2006 年 11 月 6 日に発生した雲仙岳の山火事について

### 経緯

- 6 日午前 2 時過ぎ寒冷前線通過にともなう雷雨発生。九大仁田峠の地震波形送量装置に落雷によると思われる波形断が頻発。
- 6 日午前 3 時 雲仙復興事務所岩床山カメラ画像の島の峰中腹で明るい点が見られるようになる。
- 6 日昼 一筋の煙が上昇している。
- 6 日夜 明るい点としてはっきり見えるようになり住民から消防に通報。島原市の防災機関は確認に追われる。
- 7 日午前 0 時 15 分 火山観測情報第 1 号発表
- 7 日朝 県防災ヘリによる上空視察。火山活動解説資料第 1 号発表
- 7 日夜 焼損域が少し拡大する。火山活動解説資料第 2 号発表
- 8 日朝 関係者で意見交換会が行われる。九大は落雷による山火事説を説明するが、他機関は火山ガス説を唱え、長崎森林管理署は山火事以外なら消火活動を行わないと発言。現象について意見がまとまらず。
- 8 日昼 風向きが南風になり一気に焼損域が拡大。昼過ぎに県の防災ヘリによる消火活動開始。15 時過ぎに県が自衛隊に災害派遣要請。自衛隊ヘリによる消火活動が始まる。夜になり当初の出火地点では発光がみられず、火山ガスが着火原因との説が薄れる。
- 9 日 引続き 4 台のヘリによる消火活動が行われるが、夕方になり沈静化する。
- 10 日午前 鎮火宣言。消火活動終了。島の峰の上部の約 400m×500m の領域 22ha が焼損。焼損域は、1996-98 年のヘリコプタによる空中緑化した範囲とほぼ一致している。
- 10 日午後 1 時 火山観測情報第 2 号発表



11月6日22時ごろ 赤松谷より (渡邊篤志)



11月8日17時00分

#### 火山観測情報 第1号

平成18年11月7日00時15分 福岡管区気象台

火山名 雲仙岳

\*\* 見出し \*\*\*\*\*

雲仙岳の平成新山南東側斜面で発光現象が見られています。

<火山活動度レベルは1が継続しています。>

\*\* 本文 \*\*\*\*\*

南島原消防署布津分署から、雲仙岳の平成新山の南東側斜面で赤い光が見える所があるとの通報がありました。

気象庁の野岳遠望カメラ及び国土交通省の赤松谷川上流監視カメラによると、平成新山の南東側中腹斜面の一部で明るくなる現象が確認されました。

今回の現象はきわめて局所的であり、火山性地震や微動の発生はなく、雲仙岳の火山活動は静穏な状態が続いています。

今回の現象の原因については、局所的に小規模な高温の火山ガス噴出があった可能性もそのひとつと考えられますが、詳細については、火山機動観測班を現地に派遣して調査中です。

<火山活動度レベルは0-5のうち、1(静穏な火山活動)です。>

#### 火山観測情報 第2号

平成18年11月10日13時00分 福岡管区気象台

火山名 雲仙岳

\*\* 見出し \*\*\*\*\*

雲仙岳の平成新山南側斜面の発光現象や白煙は見られなくなりました。

<火山活動度レベルは1が継続しています。>

\*\* 本文 \*\*\*\*\*

11月6日からの発光現象について、現地に火山機動観測班を派遣し、7日に九州地方整備局の協力により上空から調査を、8日に岩床山からの調査を実施しました。

これらの調査の結果、発光現象のあった場所で、白煙は見られましたが、火山ガスが噴出している様子や噴気孔と見られるものは確認されませんでした。

8日昼頃から、白煙の見られた場所から山火事が広がり、南側斜面の広い範囲に燃え広がりました。山火事の消火後、当初発光現象が見られた場所で白煙や発光現象は見られず、また火山ガスの噴出や噴気孔と見られるものは確認されていません。

なお、雲仙岳の火山活動は、火山性地震及び微動の発生はなく、また地殻変動にも特段の変化はなく、静穏な状態が続いています。

<火山活動度レベルは0-5のうち、1(静穏な火山活動)です。>